

## 少しアプローチを変えて「正確」「見やすさ」「使いやすさ」を追及



見た目が良いことは「見やすさ」「使いやすさ」に繋がりますが「正確」には結びつきませんね、ではどのようにして「正確」を追及すればよいのでしょうか、それは打合せ内容が伴っている状態にする必要がありますよね 施工図を作成する上では躯体図や平詳図を受領してから設備施工図を作図する場面が多いと思います。しかし既に着手時点では意匠や構造に設備設計図があるのですからそれらに基づき先行して作図することはCADデータが配布されている現在においてそう難しいことではありませんよね 意匠と構造と設備図を合体させ機器を実際のサイズで記載し配管も伏線で色分けつつ納まりを考慮しながら描き進める そうすることで見えてくる世界というのが必ずあります バラバラに存在している図面が合流することでイメージしやすくなることは「見やすさ」「使いやすさ」を追及した結果ですし そこから問題点を洗い出し打合せができるということは「正確」を追及することに繋がってくるのです。

